

三国保育所自己評価表（令和7年度）

園名	三国保育所	評価方法	評価基準	
記入者	所長 大石 聡子		A	達成できた
記入日	R8.3月		B	ほぼ達成できた
			C	一部改善を要する
			D	改善を要する

評価項目	評価内容	評価	所見・課題
保育理念 目 標 計 画 評 価	① 保育方針を理解している。	B	・年度初めに全職員で方針・目標を確認する機会を持った。 ・保育所に対してのクレームが5件あり、園長・主任・担任で対応し、解決していた。
	② 保育方針や目標に基づいて、クラスの年間目標を立てている。	A	
	③ 担任間で話し合っ、保育目標を立てている。	B	
	④ 各年齢の発達段階に合わせた指導計画は、ひとりひとりの発達にも留意している。	A	
	⑤ 自らの保育を振り返り、向上や改善に努めている。	A	
	⑥ 個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情に対し、その解決を図るよう努めている。	A	
保育内容	① 保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう配慮している。	A	・後期よりインクルーシブ保育を学び、より子ども主体の保育をめざして、家庭支援保育士や各担任と検討しながら進めていった。
	② 子どもひとりひとりの思いを受け止め、支援やなかまづくりに努めている。	A	
	③ 子どもたちの主体性を育む保育環境の整備・計画が立てられている。	B	
	④ 行事の計画や実施にあたっては、以前の反省や評価を反映している。	A	
人権保育	⑤ 「子どもを尊重する」ことや「子どもの人権擁護」について意識をもち適切な関りができている。	A	・「人権擁護のためのセルフチェック」を年2回実施し、その結果を職員間で共有した。 ・クラス懇談会では人権の視点での絵本の読み聞かせを行った。年長保護者には紙芝居「教科書の話」の読み聞かせも行った。
	⑥ 生活や遊びの中で意欲を大事にし、頑張ろうとする力・自信・自己肯定感を持てるような言葉かけや援助をしている。	A	
	⑦ 保護者へ保育所での人権・同和保育の取り組みを通し人権・同和問題の啓発に努めている。	B	
	⑧ 「ハラスメント」「虐待」の研修を行う。	B	
	⑨ 「虐待」を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が園長及び関係機関に届く体制が取れている。	B	
保育環境	① 保育室の整理整頓に努め、子どもたちが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	A	
	② 子どもの発達段階に即し、安全な玩具・遊具が用意されている。	B	

	③ 玩具や遊具・砂場の消毒、園庭の危険物の排除や固定遊具の点検を定期的に行っている。	B	・定期的な砂場の消毒を行う必要がある。
健康管理・食 事	① 登園時の視診・連絡帳などで健康状態の確認を行う。	A	・登園時や連絡帳でのお知らせがなかった時も、必要に応じて保護者への確認をしていった。 ・アレルギー児に対して誤食がないように、調理師・保育士ともに気を付けていった。
	② 健康診断や歯科検診の結果について保護者や職員に伝達し、必要に応じて適切な治療を受けてもらう。	A	
	③ 感染症対応についてマニュアルがあり、発生に際しては必要に応じて保護者の連絡している。	A	
	④ アレルギー疾患を持つ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	A	
	⑤ 食事を楽しむことができる工夫がされている。	A	
	⑥ 食器の材質や形などに配慮している。	A	
安全・衛生管理	① 事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	B	・マニュアルは各クラスに置き、いつでも誰でも見られるようにした。
	② 会議の中でヒヤリハット事例の共有をし、事故防止に向けた取り組みを行う。	A	
	③ 一斉メールの利用・引き渡しカードなど災害時に向けての内容の見直しや確認を行う。	A	
家庭・地域との連携	① 保護者に対して、丁寧な言葉遣いと対応を心がけている。	A	・送迎時には笑顔で対応していった。
	② 送迎時や連絡帳を利用し、子どもの様子を伝え保護者との連携を図る。	A	
	③ 家庭訪問や保護者の面談を定期的に行い保護者との信頼関係を深め、保護者連携を図る。	A	
	④ 保護者対応は公平・平等に努める。	A	
	⑤ 地域や保護者の意見を保育などに反映している。	B	
組織・運営	① 保育の質の向上や改善のための取り組みを、職員参加により行っている。(職員会議)	A	・職員会議などで行事の見直しをしたり、保育の改善などに向けて検討したりしていった。
	② 定期的な自己評価を行う。	B	
	③ 職員の研修ニーズを把握し、研修の機会を設ける。	B	

総 評

- ・クラス担任と家庭支援加配、所長が一緒になって、保育内容や支援が必要な子どもへのかかわり方など丁寧に検討していく打ち合わせを毎月行い、保育に活かすことが出来た。また、インクルーシブ保育を進めていくにあたり、会計年度の職員も一緒に検討して計画した莉していった。
- ・保護者啓発はクラス懇談会で人権の視点で選んだ絵本の読み聞かせは出来た。年長児保護者のみ教科書無償化の話は出来たが、他のクラスの保護者にはまだ来ていないのが課題である。
- ・令和7年度も「人権擁護のためのセルフチェック」を2回行い、2回目は結果をまとめて考察し、全職員に共有することが出来た。前回よりもあまり伸びていない部分は課題ある。